

国際ロータリー第2570地区

行田ロータリークラブ

RI会長：カール・ヴィルヘルム・ステンハマー / ガバナー：野中 弘之

会長：内山俊夫 / 幹事：山本憲作

例会日：木曜日

午後12時30分開会

会 場：アドバンテスト

行田クラブハウス

クラブ会報委員会

委員長：境野登章 / 副委員長：廣川和夫

委 員：島田修、鈴木貴大、田中敏男

石渡健司、小菅克祥、廣世雅昭

2005～06 国際ロータリーのテーマ

「超私の奉仕」



SERVICE Above Self

第1944回 夜間例会 (10月27日)

来訪者のご紹介

独立行政法人 水資源機構利根導水総合管理所

所 長 田中博良様

同管理課 田中様

行田さくらロータリークラブ

理 事 小沢誠邦様

田中利幸様

会長挨拶 内山俊夫 会長



皆さん今晚は。

先週は日帰り例会を開催致しましたところ、40名の会員、ご夫人の参加を頂き有難うございました。東京証券取引所にてIT化された場内を見学し、掛け声も熱気も無く売買を報告する、目の回るような電光掲示板が印象的でありました。

模擬株式取引を行い、各自1000万円の持ち金で取引を致し、約10分間で70万円も稼いだ方、全財産をなくした方、悲喜交々の結果でありました。ちなみに私は40万円程儲けさせていただきました。しかし、現金化されないため残念ですがロータリー財団への寄付は出来ませんでした。

また、劇団四季「オペラ座の怪人」は楽しく鑑賞できました。一人として居眠りとか致している方は居られず、それでこそロータリーと思いました。

夕食は夕留電通ビル47階の素晴らしい眺望と、おぼろ月夜を見ながらロマンチックにイタリア料理を楽しみました。

職業情報委員会、音楽文化委員会の皆様には大変ご苦勞をおかけ致し、有難うございました。

11月3日は文化の日であります。当日、行田市制施行56周年文化の日記念式典に於きまして、当クラブが教育文化の振興を認められ表彰されることになりました。これは一重に、会員皆様各位の日頃の教育文化活動への奉仕活動の賜物と存じます。

今回の表彰は、当クラブにて社会奉仕活動と致し特に青少年の「未来に向けての育成」に関しましての活動がその大きな事と思えます。

読書の推進活動の報告を、渡辺栄一理事に纏めていただきましたので報告いたします。

平成17年10月26日

社会奉仕活動としての読書の推進活動報告

—読書推進支援行事と

図書寄贈の実施状況について—

理事 渡辺栄一

標題の事業はロータリー100周年事業委員会から今年度読書推進委員会へ引き継がれ、継続事業として現在実施中でありまして、そこで今回はその全体について報告します。

(イ) 図書の寄付について

1. 読書は人類が獲得した文化である。読書により我々は、楽しく、知識がつき、ものを考えることが出来る。あらゆる分野が用意され、簡単に享受でき、しかも安いという特色を有する。読書習慣を身に付けることは国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみの基ともなるものである。読書の習慣を若いうちに身に付けることが大切である。

(文科省文化審議会国語分科会読書活動等小委員会作成文より)

こうした社会的ニーズとRI指導プロジェクトの趣旨にのっとり、私たち行田ロータリー
(次頁へつづく)

クラブでは03～04年度より社会奉仕部門のプロジェクトとして、又、ロータリー100周年記念事業として継続的に「若者たちの読書推進運動」を展開してきた。

2. 先ず行田市立図書館の蔵書の中に、適正な幼児と児童向けの児童書が少ないことが判明したので、行政当局とも相談の結果、同図書館内に「行田ロータリー文庫」を設置して、そこに私たちが選んだ幼児と低学年児童向けの優良な絵本と児童書を3年間、累計で2700冊余寄贈した。
3. 図書の選定には当たっては、私たちが選んだ図書司書が、私たちが教育関係有識者等から事情聴取するなどして決定した選定基準を踏まえて、市立図書館側の蔵書状況と要望も十分取り入れ、新刊書を多く含む優良絵本と児童書の選定リストを作成提出してもらい、決定した。
4. 寄贈した図書は「行田ロータリー文庫」の書架に陳列蔵書し、管理は一元化して貸し出ししているのので、利用者は自由に選択して貸し出しを受けている。昨年度は約4回転以上利用され、すこぶる人気が高いようだ。
5. 一般的に図書館職員が苦手とする幼児、児童向けの図書が、外部の優秀な図書司書スタッフにより選定され蔵書が増えていることに、図書館側でも大変喜んでいて、保護者からは優良で安心して子供に読ませられる図書があるのでやはり好評である。
6. 上記の寄贈図書の代金は本代のみで今までに約300万円である。諸費用は別である。

(ロ) 物語の読み聞かせについて

1. 本が好きになるのは読み聞かせからである。その担い手は先ず両親、特に母親である。
2. 教師を含むこの人達に、いかに読書の意義を理解し実行させるかが大きな課題であることに気が付いた。蔵書不足と本を買わないことと合わせこの問題は読書推進の最大のネックであるともいえる。文学作品等を読まず、感動の体験の少ない人には子供にそれを伝えることは難しい。
3. そのために読書の大切さや感動を、今からでもその人達に少しでも分ってもらふ努力が必要になった。読書の環境づくりといったところである。
4. 初年度には作家の志茂田景樹さんの「読み聞かせの実演と講演会」を行田市教育センター文化ホール<みらい>で開催。感動的な読み聞かせの実演と自らの体験による読み聞かせの効用と読書の意義を講演して好評であった。行田市教育委員会の後援、市内PTA連合会

の後援もあって約400人の親子が参加した。会場では平素協力関係のある「読み聞かせボランティア」の皆様が、自発的に幼児たちを一時預かりしてもらって有難かった。

5. 二年度においては、作曲家でピアニストの渡辺雄一さんと日本一のカタリスト、朗読家として名高い平野啓子さんを迎えて、二人の共演による「ピアノと朗読・語りドラマティックコンサート」を<みらい>で開催。名曲の最高の演奏により感動と心を和ませてから、ピアノの伴奏による素晴らしい語りの世界で聴衆を魅了した。その中で平野啓子さんからご自分の体験による読書の偉大性を聞かせてもらった。今回は行田市・行田市教育委員会の後援により開催。市長さんも最後まで鑑賞され親御さんだけで500人の席が満席だった。横田昭夫市長からは児童だけの演奏会の再度の開催を要望された。
6. 今年度は来る12月8日、狭山ヶ丘高等学校長の小川義男先生を講師に迎え「こうすれば本好きな子に育つ」と題して、お母さんたちを対象にしてPTA連合会との共催による読書推進の講演会を<みらい>で開催することになっている。定員は500人でロータリー会員だけで関係者100人を募集目標にしている。先生の人柄、信念、そして教育者としての危機意識を、皆さんに理解してもらおうと思っている。今回も行田市・行田市教育委員会の後援によるものである。

以上

尚、この報告は国際ロータリー識字率の向上に関する各地区クラブの活動アンケートとして、地区役員より依頼を受け報告いたしました。

渡辺さん有難うございます。そして、会員の皆様には今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

12月8日(木)10時20分より小川義男先生の講演会に、多くの市民の皆様をご案内いただきたくお願い申し上げます。

本日は利根導水統合管理所長の田中博良様にお越しいただきました。環境委員会と致しまして本年度は「行田の水」をテーマに致しております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以上会長報告といたします。



奨学金の授与

幹事報告 山本憲作 幹事



皆様今晚は。本日はよろしくお願ひいたします。それでは幹事報告をさせていただきます。

- 来月11月3日木曜日は例会がございません。そのかわり11月8日、3クラブ（行田、さくら、吹上）合同例会が行田平安閣で6時半からございますので、よろしく記録しておいていただきたいと思ひます。主催は吹上ロータークラブということです。
- 11月10日木曜日は白河・阿部会長が卓話に見えますので、ひとつ奮ってのご出席をお願いしたいと思ひます。
- 2570地区のカバナーの方からパキスタンの大地震による地区義援金と、アメリカのカトリーナハリケーンの拠出金ということで、1名あたり1000円をですね、寄付をいただきたいということで要請文が来ております。11月10日に集めさせていただきますと思ひますので、ひとつよろしくお願ひいたします。
- 昨日、5クラブのゴルフコンペがございました。5クラブというのは行田、行田さくら、吹上、加須、羽生の5クラブのゴルフコンペが、栃木のトウリカントリーで行われまして、団体戦で行田が圧勝いたしました。優勝が大野年司君、準優勝が島崎政敏君、3位が樋秀和君、4位が富田さん、6位が黒瀨さんということで、上位6名中5名を独占したということで、圧勝でございました。

委員会報告

読書推進委員会 小山委員長

皆さん今晚は。みなさんのところに、資料がテーブルの上においてあると思ひます。「講演会のご案内」、「こうすれば本好きな子に育つ」、これはゲラ刷りでございまして月曜日に刷り上ってくる予定でございまして、それを教育委員会のPTA連合会の事務所にもちこみまして、8600枚をPTA連合会、PTAを通じて生徒さんにお母さんに持って行ってもらって出席を願うと、まあ目標は400名としております。

こういう形で、先ほど内山会長から渡辺さんの書いたものの説明がございましたけれども、これについてはぜひ情報を共有するという意味で、ここに書いてありますので、しっかり皆様、目を通していただきたいと思ひます。

今日は出席が少ないので、あらためてコピーで流したいなというふうに思っております。

それからもうひとつは、小さいほう、これも急遽つくったやつでございますが、12月8日京橋教育センターで、教育分化センターで講演される「小川義男先生テレビ出演のお知らせ」というのがあると思ひます。

11月5日の土曜日、日本テレビで7時50分から8時50分でございます。是非見ていただきたいと思ひます。「世界一受けたい授業」ということで、小川先生が講師になりまして、堺正章以下タレント12名が生徒になりましていろいろ面白おかしく、読書あるいは教育について語られる大変楽しい番組だというふうに聞いております。

この二つなんですが、これから読書推進委員会がこんどは12月8日の「こうすれば本好きな子に育つ」という実行委員会を拡大しまして、24名のみなさんでこの間、第一回の会議を開きましてそのタイトルや何やらを決めまして、いただいたものがここに刷り上っているわけですが、これは講演会と言うものですね、やれば人が集まるというものではないですね、なかなか人に聞いてもらうということは大変なことございまして、どんなすばらしい人が、すばらしい話ができる人がきても名前が著名でないとなかなか集まってこない。行田で産文とか商工センターとかそういうところで講演会をやるのも非常に難しいですね。

ロータリーの講演会は知名度よりも聞いてよかつたなあ、1時間聞いてよかつたなあという講師を重点的に伝統的に選んでまいっております。従いまして、なかなか知名度という点では劣るかもしれませんが、小川先生は大変知名度が高い方ですが、おそらくわたしも初めてでございますし、人をあつめるということは大変なことでございます。

PTAに約9000枚近いこのピラを配って、目標を400名というふうにお願ひしてございまして。さきほど会長が申し上げましたように、ロータリアンを含めて一般の方々100名、ロータリーの人が集める人が100名、600名で入れ物が500名でございますので、
(次頁へつづく)



たぶん出席しますといっても、ああいう講演会のときは、ほかの会よりも非常に参加率が悪くて7掛けというふうに、600の約束をし400名ちょっとこんなところが実状じゃないかと思えます。

これから会員の皆様にこういうピラができあがりましたら、各学校やら家庭訪問をしていただきます。選挙じゃないですけど、ピラだけ作って、はいつて配っても駄目です。皆さんと一緒に足を使って是非おいでください、という形で進めていただきたいというふうに考えております。ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

忍郷友会



皆さんこんばんは。

お手元に埼玉新聞の記事のコピーをおとどけてございます。先ほど会長さんからのご報告がございましたが、創立100周年。

明治38年できました当行田にゆかりの忍郷友、めでたく10月を持ちまして、100周年を迎えたわけでございます。

そこにごございますように徳川宗家の18代のご当主、現在徳川記念財団の理事長さんをお迎え致しまして、また、かつてのお国替えの殿様の末裔の方、桑名の殿様、白河の殿様、そして忍の行田の殿様、4人の殿様のご子孫をお迎えしまして100周年の記念集会有ったわけで御座います。

おかげをもちまして、100周年を迎えた訳でございますが、問題はこれから次の100周年をどのようにむかえるか、色々頭の痛い問題も御座います。ひとえに皆さん方のご支援をいただきまして、この伝統ある行田にこのような団体が活躍して続けますことを、御礼の言葉にさせていただきます。

本当にありがとうございました。

行田さくらRC

小澤誠邦 様

皆さん今晩は。いつもお世話になっております。

今日お手元にパンフレットを差し上げておりますが、私どもクラブの田中利幸のディナーショーのご案内に参りました。

田中後援会をお預かりしておりますが、過日は会長、幹事さんにご無理をもうし上げて後援会の方の役員になっていただいたところでございます。

今、田中、一生懸命活躍しておりますので12月8日のディナーショーご参加くださいますようお願い申し上げます。

田中より一言ご挨拶させていただきます。

よろしく申し上げます。



田中利幸 様

失礼いたします。皆さんこんばんは。

いろいろとコンサートのこととか公演のお話とか皆さんには本当にいつも支えていただきまして、心より感謝もうしあげております。

また、さくらロータリーの小澤誠邦さんに去年の8月よりわたしの後援会長を務めていただきまして、後援会がより行田に根ざしたものになりつつあります。

また頼りになる皆さんに、このようにご紹介賜れるということは本当に嬉しく思っておりますので、もし12月4日に、たとえば夫人同伴でこられるとか、友達同伴でこられるとかありませば、今日のこの時にお買い上げではなくして、お買い求めの予約をしていただければありがたいと思います。

行田に文化をもっともっと根ざすために努力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今日はお忙しいところ時間をさいいただきまして感謝しております。

どうもありがとうございました。

卓 話

講師紹介

皆さんこんばんは。卓話講師の先生のご紹介にさせていただきますと思います。

昨年より黒淵バスト会長から水、城、街づくりということでございまして、水をテーマに環境問題を取り上げております。本日は水を守るということでございまして、人間の命の原点は水であり、そして今、わたくしたちの人間としてもっと考えなくてはならないことがあるんじゃないかなあ、いままでの人間中心の考え方を大きく変えていただきまして、

(次頁へつづく)

生きとし生けるもののすべて水の源泉だということも忘れてはならないのではないかなと思います。

私たちは水という物質の不思議さ、水本来の奥行き、深さ、そういうものを改めて深く知る、永遠のテーマではないかなとおもいます。

今日は利根導水統合管理事務所の田中所長さんのお話をいただきまして、水についてのもっと関心を持ちたいと思います。

先生は水資源開発に関する専門家といたしまして、水路事業の建設また管理に携わり、平成15年度からものつくり大学の非常勤講師ということをすすめていただいております。地質学の工学の専門の方で御座います。皆様のお手元の方に資料がいております。

また、今日は大変素晴らしいレシピを持ってきてくださいましたので、ちょっと人数が少なくてまことに残念なのですが、ぜひ先生のお話を聞いて参考にさせていただけたら幸いです。

先生それではよろしくお願ひします。

独立行政法人水資源機構 田中博良先生



皆様こんばんは。ご紹介いただきました独立行政法人水資源機構の、利根導水路総合管理事務所所長の田中博良と申します。よろしくお願ひします。

本日は行田ロータリークラブでこのように水の話させていただくということになりまして、大変光栄に思っているところであります。先ほどから、素晴らしい会の方の話をお聞かせいただき、またいろんな活動を聞かせていただきまして、大変感服するところでありますけれど、私どもの利根導水事業で行田ロータリークラブの皆さんには千本桜であるとか、25期の活動の方でさくらんぼがありまして、大変お世話になっておるところであります。この場をお借りしまして厚くお礼もうしあげます。

私は一昨年からのものつくり大学のほうで、非常勤の講師をさせていただいております、今日こういう形で場をいただいたわけでありまして。

本日は、少し専門的なことを含むかもしれませんが、日本の水に関する状況ということで、水を守るというテーマで少しお話をさせていただきたいと思ひます。

今、大都市ではミネラルウォーターが非常に愛飲されているようでございます。カルシウムとかマグネシウムとか、ミネラルを沢山含んだヨーロッパとか中国のこれらを硬水と呼んでおります。口当たり

が硬くて飲みにくいということ、あるいは汲み用水としましては問題を起こすということ、それに対しまして日本の水は軟水という風に呼ばれております。口当たりがやわらかいしさっぱりしていて、くせがない飲みやすい水であります。

日本では軟水に親しんできておるわけでありまして、軟水を使った食文化など育まれてきたと思ひます。たとえばお米を炊くことにつきましても、軟水が非常にふっくらしたおいしいお米を炊くことができるわけでありまして。硬水でもお米は炊けますけどね、お米の表面にミネラルが付きまして給水が悪くなって、ぱさぱさしたお米が炊き上がるということでありまして。

そういうことで、日本の文化は日本の水によって形成されたという面があるんだと考えております。それだけではなく私たちの普段の意識とかですね、社会といったものも日本の水というのを中心にしました村落共同体、そういった歴史の中で形成されてきたんだらうと、そういう風に思うので御座います。

さて、8月にNHKの特別番組でウォータークライシスという番組が放映されました。今、水にかかる問題が世界中で深刻になっておりますが、初日のタイトルは狙われた水というタイトルでした。

グローバル企業がいま石油に変わる戦略物資としまして、いま水をブルーゴールドという風にして囲い込みを行うような状況になります。

発展途上国などの水道事業に独占的に参入しまして営利をねらった結果、貧困の人たちが水を使えないといったようなことがおきている、という番組でした。

命の水というものを商品、あるいは大きな対象として良いのかという問いかけをしていました。

2日目は、枯れはてる大地というテーマでありまして、今、企業的な能力というのが急激にすすめられているということでありまして、従来、水事業から地下水の補給料をはるかに上回る汲み上げをおこなって大規模農業が展開されているところがあります。そういったために急激な地下水の低下、そして塩分の上昇というようなことがありまして、地下水の枯渇であるとか農地が塩分化してしまう地盤沈下、あるいは農業の生産費が上昇してしまう、そういったことで、近い将来に大変な食料不足が起きるのではないかというふうな内容でありまして、こうした水を取り巻く環境を含めまして、今、私たちはどういう風に付き合っていくべきなのかと、日本の将来の水を守るにはどうすべきか、考えてみたいと思ひているわけなんです。

話の順序としては、次のように進めてゆきたいと思ひております。

最初に「水との付き合い」というのに入ります。アジアのモンスーン地帯の島国であります水の豊かな日本では、水の恵みに親しみ、他方で水の脅威に苦しんできたという歴史があります。そういった長い歴史の中で、私たちの地域の水に適合した地域とか国土を作り上げてきたということなんです。

最初に利根川導水路と荒川事業についてですが、行田の方はよくご存知だと思ひますが、豊臣秀吉の北条攻めの後に1590年に徳川家康が関東に赴任してきます。そして家康は早速領国であります関東の
(次頁へつづく)

大改造を開始いたします。利根川は当時、埼玉付近をこういった形で流れていたわけです。

そして渡良瀬川ですね、また台地を挟んで常陸川は別の水系、また荒川は今は元荒川と呼ばれていますが、この流れで今は荒川とは別の流域にあると言えます。そして、1594年にそれまで東京湾に流れていた利根川の支流ををこちらの千葉県銚子の方に流すという、これは利根川導線事業と呼ばれていますが、この事業は最初に行田藩の松平氏の家臣でありました小笠原氏が、この辺り、川俣と言う地域、今は鮎川というのが羽生から加須の方に流れていますが、その河川をこういう風に流すようになった。

これが第1次の利根川の導線事業、それから20年余り経って、第2の段階になるわけですが、これは、こういう風に流したらなかなか流れにくいということで、この辺の流れを改善するというのと、もうひとつはこの利根川の流れを常陸川に流す新しい川を作った。深堀川という川を作った。

こういうことをすることによって、利根川の太平洋からの舟運、船で物資を運ぶことができるようにしたこともあるのですが、利根川をこちらに流すといったことが始められたということです。

次に第3次は、ひとひ川ですが、停止時期がありまして川の流れが不安定でありまして、船を流すのに、船を通すのに非常に難儀をするというようなことがありまして、この台地のほうに新しい川を造りまして、今の江戸川であります。

次に第4次の工事がこの赤堀川という常陸川に流れ、また川を深くするというそういうふうな工事を行いまして、これで利根川の主とする流れは、太平洋に流れるようになった、ということでありまして。

この第4次が行われたのが1654年ということでありまして、ちょうど工事が始まって60年間経って、利根川の導線事業は完了したということでありまして。

一方、荒川の方につきましては、当初こういう風に越谷の方に流れて、昔の利根川の本水と合流していたわけですが、1629年という年に、ここで熊谷の地点で入間川のほうに流れを変えました。これを荒川のせいせん事業というのですが、そういうふうな2つの事業をやることによりまして、この埼玉平野全体を洪水が少なく安定した地域になった、ということでありまして、この事業と並行しまして見沼代用水であるとか、備前堀用水であるとか、葛西用水とかそういった用水が次々と作られて、この地域の生産基盤が作られてきたということでありまして。

こういった事業、治水事業は江戸時代にはこの関東だけでなく全国的に行われたわけでありまして、この関東の事業は非常に規模が大きく、大変な事業であったと思います。

次に「耕して天に意たる」という、こういう写真をよくご覧になると思いますが、中国ですね、川の上流になります雲南省の山奥に行きますとここに素晴らしい棚田が、棚田の上から下まで標高差が600メートルもあるんですね、非常に大規模なものだそうです。

そしてこの棚田の上の山から出てくる水を使うわけではありますが、地域の人たちは山を非常に大事にしまして、この千枚田というのを、山の恵みを水を緻密に使いながら持続的に延々と千枚田を耕して、歴史を刻んできているというふう聞いております。

今日、環境問題で定番になっております持続可能なカヤツという言葉がありますが、これは1992年にリオデジャネイロで開かれました、世界環境会議で打ち出された世界の今日の共通意識と人間が目指すべきは地球環境と共生した環境である、ということでありまして。

日本ではですね、長年にわたって全国的にですね、そういったいわゆる千枚田と同じような、持続的な耕作活動が行われてきたというに考えられます。その基本となるのが持続可能な水料理、そういったことをやってきたのではないかなと思います。

ご存知のようにわが国には河川、溜池などという水源に引く、用水路、排水路、幹線水路から支線・補線という沢山の水路が日本全国にあるわけでありまして。このように人間の血管のようにめぐらされた水路は、長い歴史の中で地域の自然と適合した形で作られたという風に思われます。

これらのものを調べまして地図に書き入れたのが日本の水道図という図ですが、水路の延長で言いますと総延長40万キロ、地球10周分になるんですね、水路が、人間の血管にもこれらの似た水路網は農村地域の生産とかを支えまして、緑豊かな地球環境、地域環境を持続的に発展させてきたといえます。そういった、日本の農耕民族でありました水田の稲作を中心にしました社会基盤です。

そこで、あの、最近の話でございますが、昭和30年代になりますと高度経済成長期に入り、首都圏をはじめとしまして人口が急増し、工業が発展するというわけで新たな水需要が急激に増えたということになります。

特に東京、首都圏ではそうした深刻な水不足が発生します。またそうしたなかでも昭和39年に東京オリンピックが計画されまして、水不足の解消というのが課題になりまして国家的にこれを解決する方向にむかいます。

こうした背景に基づきまして流域全体をこの関係都県、1都5県になりますが、そこがどういう風に使ってゆくか、という全体の総合的な水需給計画ということに基づきまして、水資源開発を国家の総力を挙げて行うということになったのであります。

その中の一番核になっているのが、利根導水事業なのであります。首都東京の水不足を根本的に解決するというために、東京に利根川の水を導水することが不可欠になるということですが、あわせて埼玉、群馬の農業用水を完璧に供給する総合事業が利根導水事業です。この目的のために沢山の施設が利根大堰、あるいは武蔵水路、荒川にあります秋が瀬治水堰、田島用水、こういった沢山の施設が非常に短期

(次頁へつづく)



間にわずか5年という期間に造られたということでもあります。

これがその工事の状況をあらわしたものでありますが、東京の水事情と施設能力、資源。戦争が終わると東京は人口が毎年40万人以上増えるということになります。これにあわせて一日最大の水を使うわけになると、しかし水源になるものはそう人口とか事情等をまかなうほど増えないということがありまして、水資源の開発が短い期間でおこなわれる。

ちょうど昨日、法律ができる時をあわせて、東京は給水制限というがあります。ことしも大渇水がありまして、四国のほうでは給水制限が行われ、時間給水というようなこともあったのですが、東京ではその後3年半にかけてそういう給水制限が行われた。

特にオリンピックの年の7月、8月というのは大渇水があり、50%の喫水が行われて、一日に3時間から5時間しか水道が出ないといった時期があった。それに配慮しましていろいろな事業が行なわれてゆき、そしてここに工事が行われたということでもあります。

これは荒川の浦和、志木の間にある秋ヶ瀬湿原のオリンピックの4ヶ月前の写真ですが、堰は普段水が流れないところに、堰ができあがるともとの川道をごちら側に作り変えるというふうに、普通はいらぬ工事の仕方をやりまして、この堰と水を一年足らずに作り上げたということでもあります。

出来上がりますとまだ利根川から水がこなかったので、荒川の水を緊急的につかってその年の冬をなんとか凌いだということでもあります。

そして、武蔵水路の方はさきほどの施設と平行しまして、39年1月から40年2月、1年2ヶ月という、これもおどろくほど早い期間に造られた、14.5キロという距離になります。

この水路の断面、大きな水路からしますと、今の時代でゆきますと30年、40年かかるような工事かもしれないませんが、これを1年2ヶ月間という期間で造らせてもらったということなんです。

昭和40年3月1日からこのときまだ堰ができませんので見沼代用水の取り入れ口から、新しい水路につなげて東京への水路が組まれた。線のほうは武蔵水路を流し始めてから、半年余りたって40年10月に工事に入ってそれから2年半で水路をつくりあげ、この堰を使ったのです。

それから、農業用水はこのあたりに江戸時代から8カ所の取水場所があったのですが、それを見沼代用水のある方へ取り入れ口の防護でそういうことを行なう、ことで全体を取り入れまして、従来の取り入れ口まで水を運ぶ水路を両側に造ったということなんです。

今までの水資源開発の話をしてまいりましたが、日本の水資源開発の基調はといいますのと、昔からの農業がやってきました持続的な開発という基本的な考え方を踏襲しまして、新しい水需要に対しては水源を造って供給するというその基本をきっちりと守ってやってきたいというのを日本の水資源開発の成果考えております。

今いいましたように量の確保はかなりすすんできたわけで御座います。ただ、先進国の首都持ってますデンジョンアジェンダ、50年に一回の、100年に



一回の渇水、そういう風な海外の首都圏に比べますとまだ東京の水というのは、10分の1、10年に1回の渇水、そういう点では不安定なところもあるわけですが、今国民の皆さんはどちらかというと水質と、あるいは安全ということに関心が向けられているというふうに考えられています。

それに最近水質の事故というのがしょっちゅうありまして、今日も利根川の群馬県で1件事故がありまして、こういった事故がありますと、悪い水を入れないよう対処をしたりしているわけですが、油が入りますと非常に水道が油くさいというようなことがあったり、また上流に藻・藻類があったりするとカビ臭がするということがありまして、そういったことの対応も求められているということなんです。

そして、今、この利根川の水質の場合と考えますと、私ども利根大堰の地点では、国の環境基準というのがありますが殆どをクリアしておりますが、ひとつだけ窒素の濃度が高いという点があります。これに関連しまして先ほど報告されましたテレビ番組がありまして、これは首都圏における排気ガス、東京で車から出る排気ガスの窒素酸化物が循環しましてそれが上流の山岳地帯にいきまして雨に混じって溶け込んで流れ出ている、そういうことが明らかになってきています。

そういったことで利根川の流域界に近い群馬県水源地、人がぜんぜん住んでいないところ非常に高い窒素濃度を示している。

地下水対応を利用しまして、1950年代から地下水をポンプでくみ上げて、大規模なスプリンクラーの灌漑をおこなって水道業が盛んになりまして、直径1000メートルあって直径が約1キロあってそういった灌漑がさかんになってきます。

しかし、水源になります地下水が枯渇しますと、その農地が放棄されてうつつている、そういうふうなもの線の色が緑色だったり黒だったりそういう要素が毛利守さんが見られた宇宙からの光景だったと思われま。

それが、地下水というのは耐水層に、何千年、何万年とたまったのをわずか50年ほどにどんどん使っているということでもあります。

従来アジアで行なわれていました持続的な水事業というものはまったく違う、集落型の水事業というものです。今、こういったところではやられている。これは水の、地下水も生産財のひとつだと考えてお金で評価する、早いものを使ったほうが勝ちだという農業ではないかなと思うのでありまして、グローバゼーションが展開される中で、いま同じような意味の農業の、あるいはアジアのほうでも行な

(次頁へつづく)

われてきまして、世界的にもそういったことを推奨するといったようなことがあると、そういう風なことを少し説明したい。

今、アジアでは中国とインド、二つの国が近年目覚ましい経済発展をとげているということは説明する必要はないと思いますが、そういうことにたいしては、わが国はじめアジアの各国が大きな期待とともに脅威を抱いていると思います。ここではその二つの国のまつわる水に関する問題について、少しだけ触れたいと思います。

まず最初に中国。なかなか中国の水の情報は少ないわけですが、3年ほど前に世界的なフォーラムが日本で行われました。最初に需要の増加と水コースの優先なのですが、非常に急激な経済発展を行ないまして、水需要が増加している、供給が追いつかないというような多くの問題をはらみながら、中国の状況が進んでおります。

で、このへん一帯が北京からずっと、いわゆる中元になるわけですが、そういったなかでもいままでも農業用水として使われていたものが、沢山の内陸の工業用水として、優先的に使うというようなことが行なわれています。

また地下水の低下、農業水をたくさん地下水になります。地下水がどんどん下がってゆくということがありまして、毎年のように地下30メートルとか50メートルとかというふうには地下水が下がっておりまして、農業生産の水需要がどんどんあがっているということです。

ワールドウォッチ研究所というところがありますが、そこで調べた生産量からしますと、2002年度の年には1億5千万トン穀物とったのですが翌年には1億1千万トンと日本の米の生産量の4倍か5倍の量がいったんに減る、そういったこともおきています。

また断流ということですが、西のほうに森林の伐採であるとか流域の農業開発とかによりまして、また地球の温暖化ということもありまして、工業が減少してきているということでも水が非常に減ってきているということがいえます。特に西のほうでは、多数の河川が断流でながいこと水が水枯れをおこすという状況が起きている訳ですが、その中で有名なのが黄河の断流、1997年ちょうど8年ほどになります。黄河の下流のほうでおきました断流というのは、一年間のうち226日ですから3分の2は水が流れない。そして、断流の間も700キロですから東京から大阪を越えてもう少し、ここから中国の山に入る付近、下流ぐらゐまで平野部ほとんど水が全部流れない現象が起きた。

これに驚いて中国は西のほうに農業開発した畑を草原に戻したり、あるいは大規模な植林をおこなったり、水資源の合理的配置と統一的な調整ということがおこなわれているという風に報告された。

それと水質の問題でありますけれど、これも深刻になっているということでもあります。

大陸の内部の方ではたくさんの工事用の排水、そして都市下水流がたくさんたまっているといわれておりますが、これも何年前の大洪水のとき揚子江があります。ここに流れ出した下水の量が1億5千万トン一気に流れ出たというふうなことです。

以後は中国の内部の川は、どこも漂流水の汚染も

激しいわけですが、合わせて自然の地下水も汚染されてきまして、水道の原水としても使用不可能になりつつあるということで、病気が発生しやすい。癌とかそういったものも発生しやすいといえます。

次にインドですが、これはこの前の番組でもあったわけですが、インドのガンジス河の上流に大きなファンジャブ州という農業地域があるわけですが、ここではアメリカであったような大規模な移動灌漑が行なわれていて地下水がどんどん干上がるということがありました。

こういったことで、従来の農業の素朴な姿でやってきたわけですが、そういう風な水問題が起きているということでもあります。

それで今こういった状況をみまして、日本に戻りまして水にかかわる課題はなんだろうか、一つはまず日本農業よ元気になれというように思っております。

今、日本の農業は、WTOとかそういったなかで大変苦戦をしいられていますけれど、一方では中国や中国による経済発展が進んで富裕な層がでてきて、購買力を増やしているというなかで、日本の農産物は非常に洗練されている、おいしいのが多様に沢山あるというのが、ということでもありますので、近い将来的には中国であるとかインドであるとか、そういった所にも売り出すようなことになるのではないかなあ、あるいは中国の穀物の収量減ということを考えれば、世界的な穀物の需給が逼迫するというようなこともありますので、やはり日本の農業というのは今大事な時期を迎えていますけど、将来に向けて元気になるというようなことをごさいます。

それで今、東京水ですね、こういうペットボトルがあるわけですが、かび臭い水とかカルキとかビタミンとか水道水に不満を感じているミネラルウォーターを飲む人にたいして、今、高度処理をすすめながらおいしい水を作る自治体が多くなってきました。

この公共水は水道の水質基準よりもずっと、独自の水質基準をもうけまして、たゆまずおいしい水を作るようになってきてまして、横浜であるとか大阪、そういったところもこういったものを作って、再度、日本の水のおいしさというものをみなさんに感じてもらいたい、そういうふうを考えております。

そういったことで、明日の水を守るためにやりませんが、ひとつは水質あるいは環境への取り組みというのが大事だと私たちも考えております。全体的には日本水は大変優れた水質をしています。しかし人間活動の影響をうけて、水質が悪化していることもあり、特に首都圏では排ガスによる水質悪化といったようなところがある。

一方、浄水場での今後処理ということで清浄な水も確保されつつあるということでもありますし、また、水質の事故にたいしまして、わたしたちも悪化した水を取り入れない対策とすることでもあります。

しかし、われわれ問題の本質としまして、もっときれいな水、住みやすい環境あるいは保全というのを目指す必要があるとこのを考えております。

下水道の整備ということもあるわけですが、やはり水を大切に、環境に負荷を与えないで生活していく、国民の生活意識を変えていくことが大事なのではないかなとかんがえとおります。

(次頁へつづく)

今、農水省の方で農業用水を守る事業で、農業用水を改善する事業に対して、国の支援を行なうということを考えております。そういったことが今後の我々にとって大切なことだと考えておるわけであり

ます。
さきほどの、水質の保全を行なうこと農業用水の保全を行なって国全体、地域全体のごみの投棄とか汚染源を流さないそういった生活の改善ということも大事になってきているんじゃないかなと思っています。

農業用水を国民みんなで守っていこうという施策が始まろうとしていますけれど、そういったことを契機としまして、今後こういった水質事故を防ぐということをしてもらいたいと思っています。

最後になりますけど農村あるいは環境、この環境といったものを保全しながら持続的な水需要というものを、今後とも日本では進めてゆきたいなど、そういうふうに考えています。

以上、最後ははしょって長いところもあったとは思いますが、私の方からのお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

謝辞 内山会長

田中先生には、水を守るというテーマで意義あるお話をいただきましてありがとうございました。

今後ともご活躍を祈念いたしております。

ありがとうございました。



ニコニコ報告

行田さくらRC

☆小沢誠邦様…本日は田中利幸ディナーショーのご案内に参りました。よろしくお願いします。

☆田中利幸様…本日はクリスマスディナーショーのご案内に参りました。どうぞ宜しくお願いいたします。

☆内山会長…行田RCが11月3日文化の日、市より表彰されます。会員皆様の奉仕に対してです。ありがとうございます。

"それでこそロータリー"です。

☆山本(憲)幹事…田中所長様、卓話ありがとうございます。

☆渡辺会員…忍郷友会100周年記念式典、無事終了しました。ありがとうございました。

☆小山会員…田中所長様、卓話ありがとうございます。

先日のミュージカル素晴らしい企画でした。満足いたしました。

☆永島会員…本日は利根導水総合管理所長、田中博良様、卓話ありがとうございます。

☆黒淵会員…大野年司会員、5クラブゴルフコンペ優勝おめでとうございます。行田クラブも団体優勝致しました。

☆富田会員…田中様、本日は誠にありがとうございます。

☆小池(利)会員…田中様、本日は誠にありがとうございます。

☆小沢会員…田中様、本日は誠にありがとうございます。

☆坂本会員…田中様、本日は誠にありがとうございます。

☆古沢(憲)会員…田中様、本日は誠にありがとうございます。

☆小菅会員…田中先生、卓話ありがとうございます。

☆中島会員…田中先生、卓話ありがとうございます。

☆鈴木(康)会員…田中先生、卓話ありがとうございます。

☆清水(治)会員…田中先生、卓話ありがとうございます。

合計 ¥ 2 4 0 0 0

出席報告

正会員数	72名	●	メイクアップ	4名
本日の出席者	29名	●	出席率	45.83%